

研究の目的

2015年のパリ協定の採択と国連での持続可能な発展目標 (SDGs) の採択を契機に、気候変動問題への社会的関心はかつてない高まりを見せています。民間企業は国連責任投資原則やESG投資などの動向に合わせて経営方針を転換する必要に迫られており、このような民間企業に対して尾鷲ヒノキ等の東紀州産の木材製品を「環境負荷の削減効果が明瞭な製品」としてアピールしていくため、環境性能を評価しました。



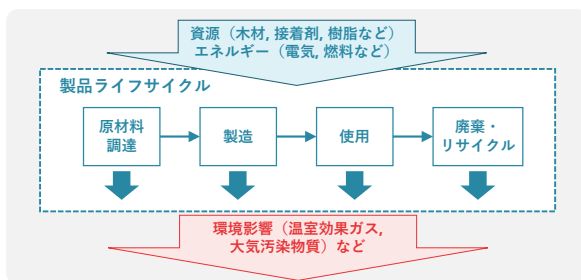
出典 三重県ウェブサイト

方法

東紀州産の木材の流通を調査し、ライフサイクルアセスメント(Life Cycle Assessment : LCA)という評価手法で、丸太の伐採や輸送、製材工場での加工などにより発生するCO₂などの温室効果ガス排出量を数値化しました。
本研究事業では、製材製品、CLT、家具製品などを対象に評価を行いました。

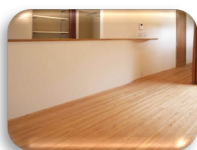
▶ 評価手法

ライフサイクルアセスメント(LCA)



結果の概要

流通を調査した結果、県内の製材所で製材（構造材、造作材等）に加工されているほか、県外においてCLTや家具製品の材料となっていることがわかりました。これらをLCAによって分析した結果、温室効果ガス排出量を明らかにすることができました。



製材の温室効果ガス排出量：**134 kg-CO₂e/m³**

✓ 東紀州の製材所7社の単純平均値。製材所ごとにばらつきあり

